

# 百年先まで持つように

設計  
長期

神奈川県・木造・K様邸  
家族構成：息子+父母

## 丈夫な基礎で、次世代へ受け継ぐ

百年持つ家を建てよう——そう決めた私たちが最もこだわったのは、リビングでした。家族全員が集う場所ですから、誰もが気持ちいいと感じる空間にしたい。将来、家族の形が変わっていくことも考え、自由度の高い開放的なリビングを作りました。二十人ほどの友人を呼んでパーティをしましたが、大人数でもゆとりがあり、みんな「広いね、明るいね」と。一人でも夫婦でも大人数でもそれなりの良さがあって、不思議と心地良く過ごせます。材料や工法の選択は息子に任せましたが、建築中、びっしり並んだ配筋を見た近所さんから「頑丈な家が建ちますね」と声をかけられました。住んでみて、しっかりした家だと実感しています。私たちが息子へ、そしてさらに次の世代へ。受け継がれていくのが楽しみです。



自由度が高い開放的なリビング・ダイニング



大人数の料理も広いキッチンで楽しく調理



多量の配筋を敷くことで頑丈な基礎を作る

## ポイント

劣化対策等級の最高等級3を取得するためには、通常想定される自然条件及び維持管理の条件下で三世代（約75～90年）まで、大規模な改修工事を必要とするまでの期間を伸張するための必要な対策が求められます。K様邸では対策の一つとして、地面からの湿気がたまりやすい床下を換気できるよう、床下の換気口を設けています。



外観は飽きのこない色調で近隣にもなじむ



長く続く安心感と  
住み心地の良さを  
実現できます

現在、着工棟数の六〇七割が長期優良住宅を取得しています。元来木は強く長く持つ素材ですから、我々がこだわってきた木造軸組みの家は劣化対策にこだわる住宅に適した素材、工法と言えるでしょう。将来にわたる家の価値はわかりづらいものですが、評価を受け性能が数字で示されている住宅なら判断しやすいのでは。書類の申請などで初期費用はかかりますが、長い目で見た場合のメリットは大きい。費用に十分見合った安心感や住み心地が得られると思います。



近代ホーム  
担当 杉山さん

